



[今月の聖書]

C1808 『喜びも悲しみも』

「さて、わたしが主にあつて大いに喜んでゐるのは、わたしを思う心が、あなたがたに今またついに芽ばえてきたことである。実は、あなたがたは、わたしのことを心にかけてくれてはいたが、よい機会がなかったのである。わたしは乏しいから、こう言うのではない。わたしは、どんな境遇にあつても、足ることを学んだ。わたしは貧に処する道を知っており、富におる道も知っている。わたしは、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、ありとあらゆる境遇に処する秘けつを心得ている。わたしを強くして下さるかたによつて、何事でもすることができる。」(ピリピ 4:10-13)

「信仰によつて、モーセの生れたとき、両親は、三か月のあいだ彼を隠した。それは、彼らが子供のうるわしいのを見たからである。彼らはまた、王の命令をも恐れなかった。信仰によつて、モーセは、成人したとき、パロの娘の子と言われることを拒み、罪のはかない歓楽にふけるよりは、むしろ神の民と共に虐待されることを選び、キリストのゆえに受けるそしりを、エジプトの宝にまさる富と考えた。それは、彼が報いを望み見ていたからである。」(ヘブル 11:23-26)

「同じように、若い人たちよ。長老たちに従いなさい。また、みな互に謙遜を身につけなさい。神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜うからである。だから、あなたがたは、神の力強い御手の下に、自らを低くしなさい。時が来れば神はあなたがたを高くして下さるであろう。」(第1ペテロ 5:5,6)

お元気で過ごしてはいかがでしょうか。西日本豪雨災害によつて被害を受けられた方々のために特別に神の癒しと守りを祈ります。今月のテーマは「喜びも悲しみも」といたしました。レイモンド・エドマン教授の「人生の訓練」のなかでは第11講「喜びについての訓練」となっています。今回はさらに一歩進めて、「喜びの日も、悲しみの日も、主とともに歩む謙遜な人の心の平安」を考えたいと思います。パウロの「どんな境遇にあつても足ることを学んだ…ありとあらゆる境遇に処する秘訣を心得ている。」(ピリピ 4:11,12)という言葉が迫つて来ます。それはパウロの「主にあつていつも喜びなさい。繰り返して言うが、喜びなさい。」(ピリピ 4:4)と表裏一体のメッセージです。クリスチャンと言つても普通人ですから、喜怒哀楽はありますが、「うまくいっているときには有頂天にならず、神の恵みとして感謝し、苦しみの日には、主からの試練と思ひ十字架を見上げて 祈りつつ過ごす」時、普通であつて普通じゃない神の子の生き方ができるんですね。エドマン教授は旧約のモーセを取り上げ、「パロの娘の子と言われることを拒み…神の民と共に虐待されることを選んだ」(ヘブル 11:24)と、更に気高い喜びを語っています。今年の夏は猛暑で耐えるのが精一杯かもしれませんが、しっかりとさらに優る喜びを選択して行けますように祈っています。私も71歳を迎え、日々本当の喜びを選択して行けますようにと祈っている毎日です。

真の喜びと祝福がありますようにお祈り致します。

(お知らせ)

* 地区集会のご案内

8月15日(水) 11:00 CFI 賛美の集い(自由が丘チャペル)、ジョイコーラスは休会です。

* 8月11日(土) 16:00 東日本大震災復興支援超教派一致祈祷会(淀橋教会)

東日本大震災、熊本地震に加えて西日本豪雨災害のために祈る時です。

* 9月1日(土) 13:30 「大震災復興支援メサイア2018」紀尾井ホール(全席自由席3000円)今回のメサイア公演のためには特別にお祈りをお願い致します。会場が満たされますように。募金が集まりますように。

* ライトハウスから「ヘンデル作曲メサイア…奇蹟のオラトリオ」が出版されました。小冊子ですが、メサイア誕生の秘話を立体的に語っています。解説CDもついています(1000円)。

伝道50年を振り返って

…二人の英国人に感謝…

1967年10月10日淀橋教会で回心してから50年になります。68年1月に召命を受けて伝道者を志してから、幾度となく迷いを経験した時、二人の英国人に助けられたと思っています。一人は1890年に来日してキリストの香りを残した、バークレー・F・バックストンであり、もう一人は1685年にドイツで生まれ、英国に帰化し「メサイア」を作曲したジョージ・F・ヘンデルです。

キリスト教は単に外国から輸入した宗教ではありませんが、私にとって英国で生まれた福音が、よりしっかりと心に収まって来たと言えるでしょう。

①「バークレー・バックストンの聖書」と題して5年前に小冊子を発行しました。1978年に留学から帰国する際に、ご息子のゴッドフレイ・バックストン師から「父の聖書を大切に読んでくれる人にあげよう」と言って無数のメモの書き込みのある聖書を頂いたので、その一部を紹介したのです。若い伝道者が伝道心に燃えても、みことばの宣教だけで生きていこうとすると、神学問題、教会制度、将来のビジョンなどで先が見えなくなることがあります。回心して間もなく、父の書斎にあったバックストンの「レビ記講義」を読んで、この人は違う！この人はイエス・キリストの香りだと感じ学び始めました。聖書に対する態度、深い人格、伝道の真摯な姿など…その模範がなかったなら今日まで私は伝道が続けられなかったでしょう。



②この度「ヘンデル作曲メサイア…奇蹟のオラトリオ」を出版しましたが、このメサイアという曲との出会いが、私の信仰と人生を開いてくれたと言って過言ではありません。回心したばかりのクリスマス前に、千葉県文化会館で初めてダビデ合唱団の「メサイア」を聞いた時、預言の成就として来られたイエスキリストがよくわかったのです。厳しいクリスチャンホームで育ちましたが、聖書の全貌は全くわかりませんでした。メサイアを通して中田羽後先生の書生となり、音楽による伝道の道を開いて頂きました。遠い存在であったヘンデルが今、同時代に生きているかのような近さを感じています。葛藤の多い孤独なヘンデルが自分で作曲したメサイアで、まことの友キリストを見いだしたことこそ「奇蹟」であると思います。今年も(とは言え最後かもしれませんが)メサイア公演を行おうとしています。コンサートを通して、まことの友、救い主、王の王キリストをお伝えしたいと祈っています。遠くで来られない皆様にも小冊子でお伝えします。どうぞCFIメッセージの背後に流れる二人の英国人の信仰を読み取って下さい。

小田 彰

◎先月号に掲載しました山田君子姉の証は大変感動的ですので、次号に引き続き掲載致します。